

「だってさ、お母さんがお友だちをうち
によんできて遊びなさいっていったんだも
ん。ねー、ぼくんちにきなよ、ねー、お母
さんがそういったんだもん」

この子の母親は勤めに出ていて、夕方七
時ごろになるまで家にいない。団地の三階
に住んでいる、いわゆる鍵っ子である。近
所にめいわくがかかるといけないと思うの
で、友だちの家にあそびに行ってはいけな
いといわれている。友だちをよんでくるの
はかまわない。けれども、近所の子どもの
母親は、だれもない三階のアパートに子
どもだけ出すのは心配である。この子にと
っては、母親がきめた約束は絶対の力をも
っている。

「幼稚園なんかつまんない。あたしが何
やろうと思つてるとお片づけになるんだも
ん。それにさ、ちょっとでも土を掘りかえ
すと叱られちゃうの。すべり台をさかさ
上がつてもいけないしさ、お砂場に水をい
れてもいけないんだよ。だから、あたし、

なんにもしないの」

幼稚園で何もしないでぶらぶらしている
子どもと、ゆっくりはなしたときの会話で
ある。幼稚園で先生のきめた約束は絶対で
ある。多くの子どもは、先生との間でトラ
ブルを起こしてまで、思いきって遊ぼうと
は思わない。むしろ、先生にいわれたこと
だけやって、他のことは何もしない方が安
全だと思ふ。

現代の幼児は、道を歩けば、自動車がか
ない。幼稚園にいけば、安全教育のため
に、集団教育のために、約束でしぼられて
いる。家に帰れば、遊び場がない。掘りか
えず土もない。いったい、どこで手足を伸
ばして遊ぶことができるのだろうか。

せめて、幼児の教育の場である幼稚園で
は、子どもの力を思いきり伸ばしてやるこ
とがつとめであろう。子どもの生活をしば
りつけている束縛から解放して、幼児の本
来の力が伸びる資を与えるところが幼稚園
である。

幼児の教育 第六十七巻第五号

五月号 © 定価八〇円

昭和四十三年 四月二十五日印刷
昭和四十三年 五月 一日発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売
所 フレーベル館にお願いいたします